

## デザイン ハボロネ 平成26年度1次隊

ボツワナに派遣が決まって、色々な人に報告したら、「そんな仕事が協力隊にあるのか?!」とか同業者の人には「そんな需要があるのか?!」という反応されること多々でした。全世界に大体10名前後しかいない希少職、デザイナーはインドアな人が多くそもそも協力隊に応募する人も稀です。私の場合は父がカンボジア NGO 代表、母が元シニアボランティアという環境にいたため、JICA の要請を知っていましたが、デザイン業界でこれを知っている人は稀だと思います。

デザインと一口に言っても派遣先によって大きく仕事内容には差があり、一概にこうとは言えません。これは私の例です。

### 配属先と仕事内容

私の配属先はボツワナ国立博物館のテクニカルサポートサービスという部署になります。通称 TSS。TSS には大工、建築、映像編集、ラジオ編集、写真など博物館の展示、イベント、広報活動に必要なスタッフがそろっている部署です。主に私は広報冊子、展示関係のパネルなどのデザイン、広報ツール、イベントツールなどのグラフィックデザインをここでしています。下記は一例。詳しくはビハンスというサイトに作品掲載しているのでご覧ください。



Behance (ビハンス) → <https://www.behance.net/hiromi163>

日本の博物館にこういった部署はなく、現在の日本ではすべて業者に外注をしているパートになります。ボツワナでは博物館のみならず、他の省庁でも広報部にデザイナーを抱えています。日本も効率化を企業がはかる前まではこういった形でデザイナーは仕事をしていたのでボツワナというより、途上国の特徴になるかもしれません。

ただ、日本と大きく違う点があります。ボツワナはダイヤモンドで安定した収入を得てそれを公共福祉に使っている優等生な国です。ただし、お金はあるけど仕事がない、人口が少なく、産業が育たないため、こういった部署で雇用創出している節もあり、一概に「効率化して部署を廃止するのが発展のあり方だ」とは言えないと思います。

### 技術移転

JICA のボランティアはどんな要請にも「技術移転」という役割が必ず入っています。ボランティアの中には配属されたら技術移転する相手がいなかった or 途中で辞められたなどの問題が発生するケースは多々ありますが、幸運なことに私の配属先は私で派遣3代目で2代目から同じカウンターパートに技術移転をしていっています。あるあるですが、カウンターパートが年上で男性なのであまり上から強制的に「あーしなさい、こーしなさい」という指導の仕方は受け入れられません。ゆるく提案していったり、聞かれた時に応えたりしています。やらせる時は「今こっち忙しいからお願い」って感じで話します。

彼らは色々なことが日本人に比べて大雑把で、受け手（カスタマー）も大雑把なので日本のデザイナーが大好きな細部へのこだわりというものは一人前になるのに必要でない可能性が高いです。ただし、的の外れたものは容赦なく上層部がボツにしてくれます。上層部にボツられたり、他スタッフの進行管理が悪かったりなどで、ストレスためてるのでそれをどうにかできるように仕事のやり方自体もゆるく提案しています。

いずれにせよ私たちボランティアは2年の任期で日本に帰ってしまう存在。数年後におこることの責任とることになるのは彼らです。派遣始まって4年以上が経過している配属先なので、上司はボランティアが一体どんな制度かは理解しています。なので最終的に提案を受け入れる or 受け入れないは配属先の判断に任せる気持ちでいます。

日々の出来事や仕事の小話などはブログにアップしていってますのでこちらを参照ください。→<http://hirominatsu.tumblr.com/>

## その他の仕事について

デザインの隊員は他隊員の仕事や、JICA 関連、大使館の文化事業関係の仕事を手伝うことも多いです。他国の訓練同期からも仕事が入ります。同じく Behance (ビハンス <https://www.behance.net/hiromi163>) にアップしているような感じです。



## 生活について

私の任地は首都なのでそこそこ発展しており、スーパー行けば大体のものがそろいます。不便だ一と思うのは日本が遠すぎて東南アジアに比べるとアジア系の食材なんかが入りにくいです。ただ、中国とインドはこちらにかなりの数の人たちがきているので中国系食材とカレー粉は充実していると思います。

ボツワナは雨が降らない国なので畑より牛の家畜がメインの産業です。牛肉は日本より安く、しまっている肉が安く食べれます。個人的には南アからの輸入品ですが、マッシュルームは日本より美味しいと思います。

魚は北部で淡水魚を食べる習慣がありますが、首都近郊は川自体もなく乾燥した土地なので基本あまり食べません。なので冷凍 or 缶詰のムール貝、エビ、イカ、サーディン、ヘイクはスーパーで買えますが、日本のような鮮度の良い魚介類は手に入らないです。こんなに毎日肉ばかり食べていたら痛風になるんじゃないかと心配なので、肉は週一回しか買わないと私は決めています。

ちなみに私は博物館の中に家があるので、通勤1分でオフィスに行っています。安全対策上もよく、通勤も楽という恵まれた環境です。



写真左から現地食のパリッジ (白トウモロコシの粉末を蒸したもの) とセスワ (牛肉を煮詰めて繊維状にしたもの) / ホシイモムシ料理 / リバーウォークという大型ショッピングモール / そのへんで飼われている牛です。

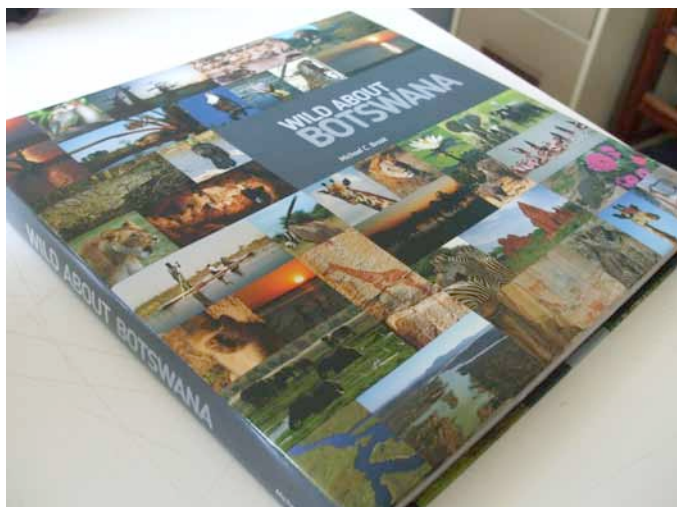
## 旅行

旅行結構してます。とはいえボツワナの職場は出席重視なんで休みは簡単にとれず土日ですが。

ボツワナはバスでの移動が割と正確に行えるので旅行しやすい国です。高級ロッジもキャンプサイトをもっていて、そこは安く使うので便利です。北部には世界遺産オカバンゴデルタ、モレミゲームリザーブ、チョベナショナルパークなど野生動物の楽園、ゾウ密度世界 No. 1? という説。北東部には世界最大級の塩湖、マカディカディパン。北西部に世界遺産ツォディロヒルズという壁画のある岩山、東部にはチュリという岩と起伏のある土地に野生動物があつまるゲームリザーブ、中央部のセントラルカラハリゲームリザーブというブッシュマンと呼ばれる狩猟採取民族がいまだに砂漠の水もなにもない真っ平らな場所に住む地域、南西部にはカラハリトランスフロンティアパークという赤土の砂漠なんかがあります。欧米と南アのラグジュアリーロッジが立ち並び、バックパッカーにとっては来にくい国です。



そんな感じで旅行をして写真を撮ってというのをやっていた結果、ボツワナの自然についての写真集に写真が掲載されました。全部で30点くらい掲載されています。国内の書店やボツワナクラフトというおみやげもの屋さんで販売されています。



もし見つけたら買ってね！（笑）